

公益社団法人日本連珠社 2022年度事業計画

2022年度も引き続き、連珠の普及・発展を図る実務面では、従来と同じ事業展開を地道に実施し、連珠普及活動を支局・支部と友好関係にある「地域に密着した連珠会」に「連珠普及業務の委託」を通して、公益社団法人として相応しい法人を目指します。

具体的な事業計画は次の通り。

(1) 第60期名人戦 … 700～1,000千円

△名人位決定戦挑戦手合い5番勝負 … 250千円

原則として2022年10月～12月にかけての5日実施する。

第1局・第2局仮日程は、10月（開催場所未定）です。飯尾名人戦運営委員長が名人の日程都合を確認して、機関誌等で後日公示する。

△同 名人位挑戦者決定リーグ（略称：A級リーグ）戦 … 450～600千円

2022年9月17日（土）～19日（月・祝日）、於：静岡県焼津市西焼津セントラルホテル

◎第60期A級リーグ代表選手対局参加料（選手負担金額）…17,000円/1人とする。

△同 一次、二次予選 … 150千円、予選会場費・運営諸費用→支局・支部会計から費用負担

名人戦運営委員長が文書で委嘱任命した各地運営責任者に【会場確保と運営実務】を委ねる。

A級出場者の決定を7月中とする。

(2) 機関誌『連珠世界』の定期発行 … 2,200～2,600千円（郵送費・荷造包装費・表紙制作費等含む）

△毎月初の定期発行を守り年12回発行する。送料・製作費を鑑み、頁数を平均48頁程度、最大でも60頁以下にする。

△普及目的のために、寄稿された〔普及活動報告〕、〔普及施策〕や〔入門講座〕などを掲載する。

△一般読者が【公益活動】と認識しやすい記事（児童対象・老人会での活動報告や地域活動）を掲載する。

△昨年度に引き続き、【指定寄付：機関誌発行支援】を募り、機関誌の安定発行に資する。

(3) 本部と各支局・支部活動の継続 … 本部主催棋戦100千円、委託費250千円（支部後援棋戦含む）

▲従来の支局・支部主催棋戦 ⇒ 誰でも参加できる公益事業であるため、地域に密着した連珠会と【所定の覚え書】等を交わして【連珠普及業務の委託】を相互協力して推進する。＊公式棋戦は下記の通り。

公式棋戦とは、優勝者などに昇入段権が付与される日本連珠社が認定した棋戦・大会であり、【昇入段規定】に掲載されている棋戦のこと。棋戦終了後原則2ヶ月以内に、勝・敗・分に限定して、支局長・支部長（または棋戦実施責任者）が、記録委員長、機関誌編集委員長と広報委員長に報告する。この義務を怠った場合、発生した付与権利も認められない。（平成27年度第4回理事会2号議案決議）

△「第17期全日本連珠選手権戦＝愛称・珠王戦（2021年度はコロナ禍により中止）」、「中段戦」、「マスターズ連珠王座決定戦」、「全国通信戦大会」、以上本部主催。「名人戦支局・支部予選」、他認定棋戦、以上支局・支部と地域連珠会併催棋戦

(4) 各地区の連珠会と会員などへの支援強化 … 本部から普及資料等配布50千円（郵送料含む）

支局・支部主催棋戦 ⇒ 地域連珠会が費用負担

△本会支局・支部のリーダーや連珠公認指導員・普及協力員が、各地区の連珠会の協力支援の下に、競技会・例会や各種の指導が行なわれている。これらを支援し、きめ細かい施策を取り入れ、普及促進する。

△主な各地の連珠会は次の通り。（ホームページ全国連珠会案内など参照）

普及業務委託先連珠会⇒「青森連珠会」、「福島連珠会」、「浜松連珠会」、「東海連珠会」、「関西連珠会」、「京都連珠会」、「阪神連珠会」、「広島連珠会」、「九州連珠会」、「福岡連珠会」、「佐賀連珠会」、「葉隠連珠会」、以上12連珠会

※上記以外でも、公益に資する継続した普及活動をしている方や地域連珠会からの支援要請に対応する。

(5) 積極的な国際交流 … 150千円

△本年度も、【国際交流援助募金】を募り、世界戦が開催可能な状況になった場合は積極的に選手を派遣する。昨今のコロナウイルス感染拡大により、当面は実戦での大会開催は難しいと見込まれるが、オンライン大会などに積極的に参加する。

※日本代表選手の世界戦参加費（エントリー料）は、日本連珠社が負担する。

※社会情勢や財務状況の変更による補助金額変更は理事長に一任する。

(6) ホームページの充実 … 50千円（一部HP管理費）

△「ホームページ」の内容についてはメディア委員会の管理の下、所轄官庁内閣府総務省他各省庁の法人情報開示指導、公益法人改革法及び政府のIT政策によって不可欠になっていることもあり、特に不特定の連珠愛好者に連珠の事業を広報し、理解を深める。

▲連珠に関心を寄せる一般者や各地区の連珠会から要望が強い【予定表】と、多くの珠友への緊急連絡などに必須の【広報版】の速やかな開発に努める。

公益社団法人日本連珠社
2022年度事業計画

- (7) 新聞、図書、雑誌、ラジオ、テレビ、インターネットなどによる普及活動 … 30千円＋支局・支部経費
△広報委員会が中心となり、これらの機関に対して積極的に老人施設や児童館・学校などでの公益事業活動のアピールを継続するとともに、名人位決定戦、A級リーグ戦、国際戦情報を提供する。
▲2020年から新しく導入した、「五目クエスト」による級位認定、公式級位免状、初段免状の発行については好評を博しており、引き続きこうしたインターネットツールを使つての普及活動に努めていく。
▲ABEMA、ニコニコ生放送、などのインターネットテレビで名人戦中継を行うことなど、普及に役立つコンテンツ提案を積極的に行っていく。
- (8) 詰連珠による昇入段制度の継続 … 20千円
△諸事情で実戦機会に恵まれない連珠愛好者のため、「詰連珠新題」、「天狗道場」、「特別昇入段テスト」などを機関誌で継続出題する。
△詰連珠出題や解答者の表彰も公益事業目的にかなっているため、全国通信戦の活性化も視野に入れながら、詰連珠通信戦委員会活動を推進していく。
- (9) 参考書・ルールブックなどの発行 … 20千円
△平成21年度全会員に配布された『新ルールブック』を、非会員の希望者には公益事業の一環として無料（郵送料実費）で提供することを継続する。
▲連珠の普及発展には、普及推進委員会がまとめた【普及共通ツール】を活用する。【普及共通ツール】で初歩をクリアすれば、四珠交替打ちにも対応可能な棋士育成につながる。
△日本連珠サービス発行の『はじめての連珠④』や『詰連珠100連発』も初心者普及に適しているため、本部経費で購入頒布する。また各地区の連珠会で購入し活用するよう働きかける。
- (10) 臨機応変な施策の推進 … 100千円
△急激な時代の変化に対応するため、当初の計画にとらわれない弾力的な運営を心がけ、解決すべき案件などを着実に一つ一つ実行する。
- (11) 高齢化社会への積極的な対応 … 地域連珠会が費用負担
△高齢化社会に対応し、重要な公益事業推進の一環として、老人クラブ等に積極的に働きかけ、社会のニーズに添えていく。
- (12) 会員増員計画推進運動の継続
▲各地の連珠会参加者増が会員増に直結する。会員でネット連珠に参加可能な人は、懇意な対局相手に各地の連珠会を紹介して参加を勧めるなどの全国展開を図る。
- (13) 「連珠・公認指導員」制度の活動 … 40千円
△職務分掌の普及推進担当理事（千木良氏・丸田（光）氏）が中心になって、連珠公認指導員・普及協力員を活用し、普及推進活動具体施策の早期実施と活用を望む。
- (14) 特別表彰制度 … 30千円
△特別表彰制度内規（理事会議決）に沿って、2022年度特別表彰者を表彰する。
※特別表彰制度として、理事会で審議決定した下記3条件のいずれかを満たした者を推薦する。
（1）新聞、雑誌等に5年以上、詰め連珠や連珠関連のニュースの提供、図書の出版をされた方（公益性が著しく高い）
（2）連珠の普及に継続して貢献された方（公益性が相当高い）
（3）国際交流に貢献された方（公益性が高い）
※候補者氏名と表彰理由
コロナ禍で日本全体が落ち込んでいる中、本年は昨年に引き続き連珠界も活動縮小を余儀なくされることが予想される。地道な活動を推進する意味からも、今年度の特別表彰候補者はなしとしたい。
- (15) その他 … 50千円
△諸事情で実戦機会に恵まれない連珠愛好者のために「段級位認定問題」の配布などを続けます。